

特定外来生物

オオハンゴンソウ

真正双子葉類 キク科 *Rudbeckia laciniata*

生態系被害防止
外来種リストの区分

緊急対策外来種

日本の侵略的外来種ワースト 100

世界の侵略的外来種ワースト 100

哺乳類

鳥類

昆虫類

両生類

魚類

昆虫類

甲殻類

クモ類

貝類

植物

基礎情報

原産地

- ・北アメリカ

現在の分布

- ・世界では、アジア、ヨーロッパ等に移入分布
- ・国内では、ほぼ全国に分布する。北海道、福島県、長野県、岐阜県で大群落が見られる。
- ・県内では、三河山間部に多く、設楽町などでは休耕田に群落を形成している。豊川下流では上流から流れ着いたと思われる株が見られている。



県内分布図(2023年)

侵入の経緯

- ・日本には明治時代に渡来し、観賞用に栽培されたものが逸出したと考えられる。
- ・野外では 1955 年に確認された。

形態

- ・多年生草本
- ・茎は高さ 50cm~3m。地中を横に走る地下茎から直立して上部で枝を分ける。
- ・葉は互生(茎の 1 つの節に 1 枚ずつ方向をたがえて葉がつく)。下の方の葉には長い柄があり、深く裂けて 5~7 枚の裂片に分かれ、それぞれの裂片の縁には粗いが鋭い鋸歯(ギザギザ)がある。上の方の葉の柄は短いか無い。葉の裏にのみ短い毛がある。
- ・他のキク科植物と同様、小さな花(舌状花と管状花)が多数集まった直径 6~10cm の頭状花を長い花柄の先につける。舌状花は 5~14 個で黄色、中心の管状花は黄緑色。
- ・果実は瘦果(薄くて硬い果皮の中に一つの種子が包まれている果実)をつける。果実はやや扁平で長さ 4~5mm、短い冠毛がある。



(写真提供:環境省)

生育環境

- ・休耕田、放棄畑地、河川敷、若齢の造林地などに多いが、明るい落葉広葉樹林の林内などにも侵入する。やや湿った場所に生育することが多い。
- ・湿原や溪畔林などの自然度の高い環境にも侵入する。

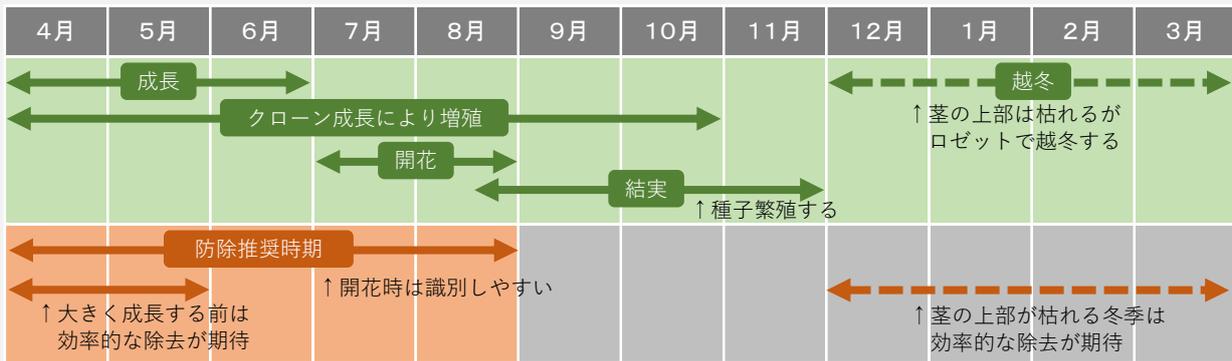
生態・ライフサイクル

- ・開花期は7～8月。開花後、夏から秋にかけて結実する。
- ・多年生草本で、冬はロゼット状の葉を形成して越冬し、暖かくなると成長を始める。
- ・果実(種子)をつけるが、地下茎から側枝を伸ばして栄養繁殖も旺盛に行い、大きな群落を形成する。
- ・地下茎が残っていると容易に再生する。
- ・種子は土壌に埋まっても発芽能力を維持し、永続的な土壌シードバンクを形成する可能性があると考えられている。



林内で繁茂するオオハンゴンソウ

【ライフサイクル・防除推奨時期】



類似種との識別ポイント

- ・本種の開花期(夏)に黄色の花をつける主な類似種として、アラゲハンゴンソウ、キクイモ(いずれも外来種)がある。

アラゲハンゴンソウ (外来種)

①中心の管状花は紫黒色



- ①舌状花は黄色、中心の管状花は紫黒色
- ②葉は分裂しない。茎には粗い毛が生える。

キクイモ (外来種)

①中心の管状花は黄色



- ①舌状花は黄色、中心の管状花も黄色
- ②葉は分裂しない。茎には粗い毛が生える。

哺乳類

鳥類

は虫類

両生類

魚類

昆虫類

甲殻類

クモ類

貝類

植物

影響・被害

- ・繁殖力が強く、群落を形成して在来植物の生育場所を奪う。植物体が大きく、根茎で栄養繁殖して密生群落を作るため、他種に及ぼす影響が大きい。
- ・落葉広葉樹林、湿原、溪畔林など比較的自然度の高い場所へも侵入する。



(写真提供:環境省)

オオハンゴンソウの群落

生育・被害の確認方法

- ・休耕田、放棄畑地、河川敷、若齢の造林地など、本種の生育の可能性がある場所を踏査し、生育個体を目視により確認する。花が黄色で大きく、遠くからでも識別することができるため、開花期(7~8月)が望ましい。
- ・既存の研究調査に関する文献や目撃情報をインターネットや図書館で探す。
- ・地域の住民や農業従事者、専門家などを対象に聞き取りやアンケート調査を行う。



(写真提供:環境省)

オオハンゴンソウの花 (識別が容易)

防除方法

- ・本種は永続的な土壌シードバンクを形成する可能性があるため、地上部を除去しても、翌年以降に土中の種子から発芽し、再び繁茂することがある。このため、防除は複数年にわたって、継続的に実施する必要がある。
- ・侵入の初期、群落規模が小さいうちに除去することが有効
- ・手作業による除去が一般的

推奨時期

- ・花による識別が容易な開花期(7~8月)
- ・種子をつける前(4~8月中旬)までに除去することで効率的に減らすことができる。
- ・生育場所が判明している場合、茎の上部が枯れる冬季や、大きく成長する前の春季は、効率的な除去(駆除作業の労力や、処分量の軽減)が期待できる。

具体的な防除方法

- ・群落の規模が小さく個体数が多い場合は、他の生物に対しての影響が小さい手作業で除去する。地下茎が残っていると容易に再生するため、根の抜き取りや表土ごと掘り取るようにする。
- ・個体数およびバイオマス(植物体の量)が多く大きな労力が必要となる場合は、刈り払い機等により地上部の刈り取りを行う。
- ・最終処理は、一般廃棄物として廃棄する(各自治体の基準に従う)。



除去した植物体の袋詰め

【主な防除方法】

区分	方法	概要
物理的防除	抜き取りによる除去	<ul style="list-style-type: none"> ・手作業により根ごと抜き取る。またはスコップや根掘り等を用いて表土ごと掘り取り除去する。技術的に実施が容易。 ・地下茎から再生するため、できるだけ土中に残さないよう留意する。 ・種子の供給源とならないよう、作業中に落下した果実や花も回収する。 ・本種のみを対象とした選択的な除去が可能で、他生物への影響が少ない。 ・1度の除去作業で根絶に至る可能性は低く、複数年継続する必要がある。
	刈り取りによる除去	<ul style="list-style-type: none"> ・種子をつける前(8月下旬)までにカマや刈り払い機で地際から刈り取る。 ・抜き取りによる除去に比べ労力を必要とせず、種子による繁殖を抑える効果があるが、地下茎が残るため再生する可能性が高い。分布の拡大を抑制することはできるが、根絶は困難。

作業上の注意点等

- ・防除作業を行う前に、対象地の所有者・管理者の承諾を得る。必要に応じて、地域住民にも防除の目的や活動内容を周知する。
- ・生きたまま保管・運搬等することは原則禁止されているため要注意(植物の場合は完全に枯死させる必要がある)。地方公共団体の職員が処分のために一時的に行う特定外来生物の運搬は飼養等禁止の例外規定に該当するが、市町村が単独で長期的に防除を行う場合は、国による防除の確認を受けることが望ましい。なお、地域住民やボランティアが植物に関して小規模な防除を行う場合は、以下の要件をすべて満たせば保管・運搬が可能になる。

- ①小規模な防除を行う者が、当該防除に伴い運搬をするものであること。
- ②防除した当該植物を処分することを目的として、廃棄物の収集、運搬又は処分に供する施設に運搬すること。
- ③当該植物の落下、種子の飛散その他の理由による野外への逸出を防止するための措置をとっていること。
- ④防除を行う者が、あらかじめ当該防除に関する事項を掲示板、インターネット等を使用する方法により公表していること。

- ・地下茎から容易に再生するため、できるだけ抜き残しがないようにする。作業に使用した道具、長靴、刈り払い機などに種子や断片が付着して運ばれる可能性があるため、作業後は洗浄する。
- ・除去した個体は袋に詰める。種子をつけている場合は、袋の外にこぼれ落ちないように留意する。
- ・土壌シードバンクを形成する可能性があるため、作業後も定期的に確認を行い、再生が認められた場合は直ちに取り除く。

必要な法令上の手続き等

- ・特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律に基づく防除の確認・認定の手続き(市町村単独の防除の場合)

出典・参考資料

- ・侵入生物データベース > 日本の外来生物 > 維管束植物 > オオハンゴンソウ (国立研究開発法人 国立環境研究所) <https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/80580.html>
- ・日本の外来種対策 > 特定外来生物の解説 > オオハンゴンソウ (環境省 自然環境局) <https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/L-syo-03.html>
- ・日本の外来種対策 > 外来種写真集 (環境省 自然環境局) <https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/asimg.html>
- ・特定外来生物同定マニュアル 植物 (環境省 自然環境局) https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/manual/10hp_shokubutsu.pdf
- ・植えないで！増やさなくて！特定外来生物オオハンゴンソウ (環境省 釧路自然環境事務所,2014)
- ・河川における外来植物対策の手引き (国土交通省 河川環境課,2013)
- ・地域と連携した外来植物防除対策ハンドブック(案) (国土交通省 河川環境課,2021)
- ・愛知県の外来種 ブルーデータブックあいち 2021 (愛知県,2021) p.180 オオハンゴンソウ (瀧崎吉伸・芹沢俊介)

哺乳類

鳥類

は虫類

両生類

魚類

昆虫類

甲殻類

クモ類

貝類

植物